



# 新しい国際コンテナ戦略港湾政策の進め方検討委員会



令和8年1月21日  
新しい国際コンテナ戦略港湾政策の  
進め方検討委員会  
資料2-6

## 横浜港・川崎港の取組状況について

2026.1

YKIP

## 1. 現状の貨物取扱や基幹航路の寄港状況

- ・北米西岸航路や国際フィーダー貨物等の増加により取扱量が増加（9月時点 前年比101.9%）
- ・特に東日本の各港を中心とした集貨施策の結果、国際フィーダー貨物量が拡大（9月時点 前年比113.8%）
- ・新規に中南米航路やアフリカ航路が寄港開始

## 2. 集貨に関する取組

- ・外航コンテナ船社等の海外本社に対して直接営業活動を実施
- ・インドネシアでセミナーを開催する等、アジア広域集貨に向けた取組を展開
- ・国内でも東日本の各港と結ぶ国際フィーダー航路網や鉄道輸送の利用を促進

## 3. 創貨に関する取組

- ・本牧ふ頭A突堤のロジスティクス拠点整備が進展

## 4. 競争力強化に関する取組

- ・本牧ふ頭D5ターミナルの一部供用開始、新本牧ふ頭の整備も継続
- ・南本牧ふ頭において大型GCの遠隔操作に係る実証実験を開始
- ・CONPASの導入等によるCTのゲート高度化に対する補助を決定（2件）
- ・サイバー攻撃事案に対する連絡会の立ち上げ、訓練の実施

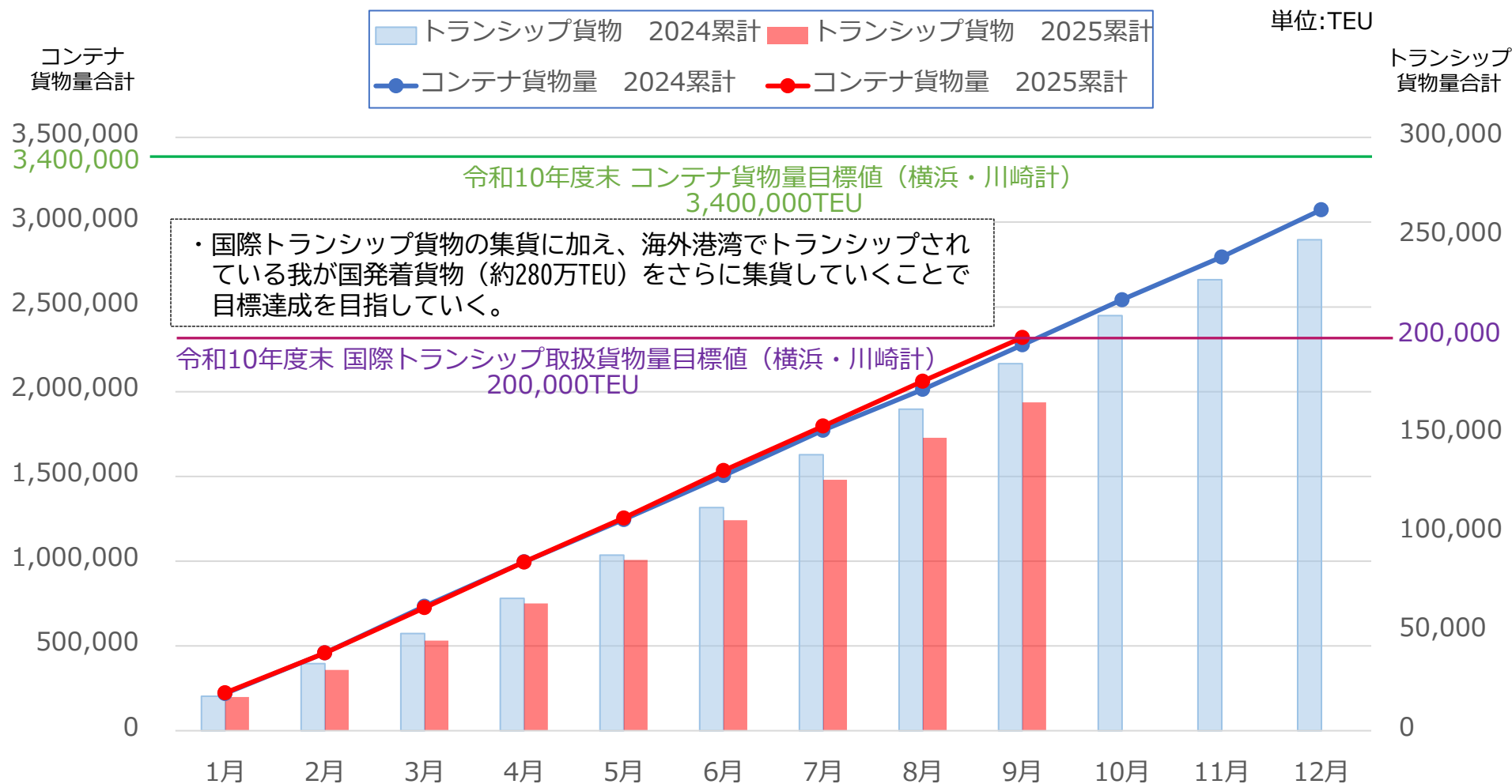
## 5. 選ばれる港になるために

- ・コストパフォーマンスとタイムパフォーマンス（定時性）

# 1.現状の貨物取扱や基幹航路の寄港状況

## (1)横浜港のコンテナ貨物量（外内貿計）及びトランシップコンテナ貨物量

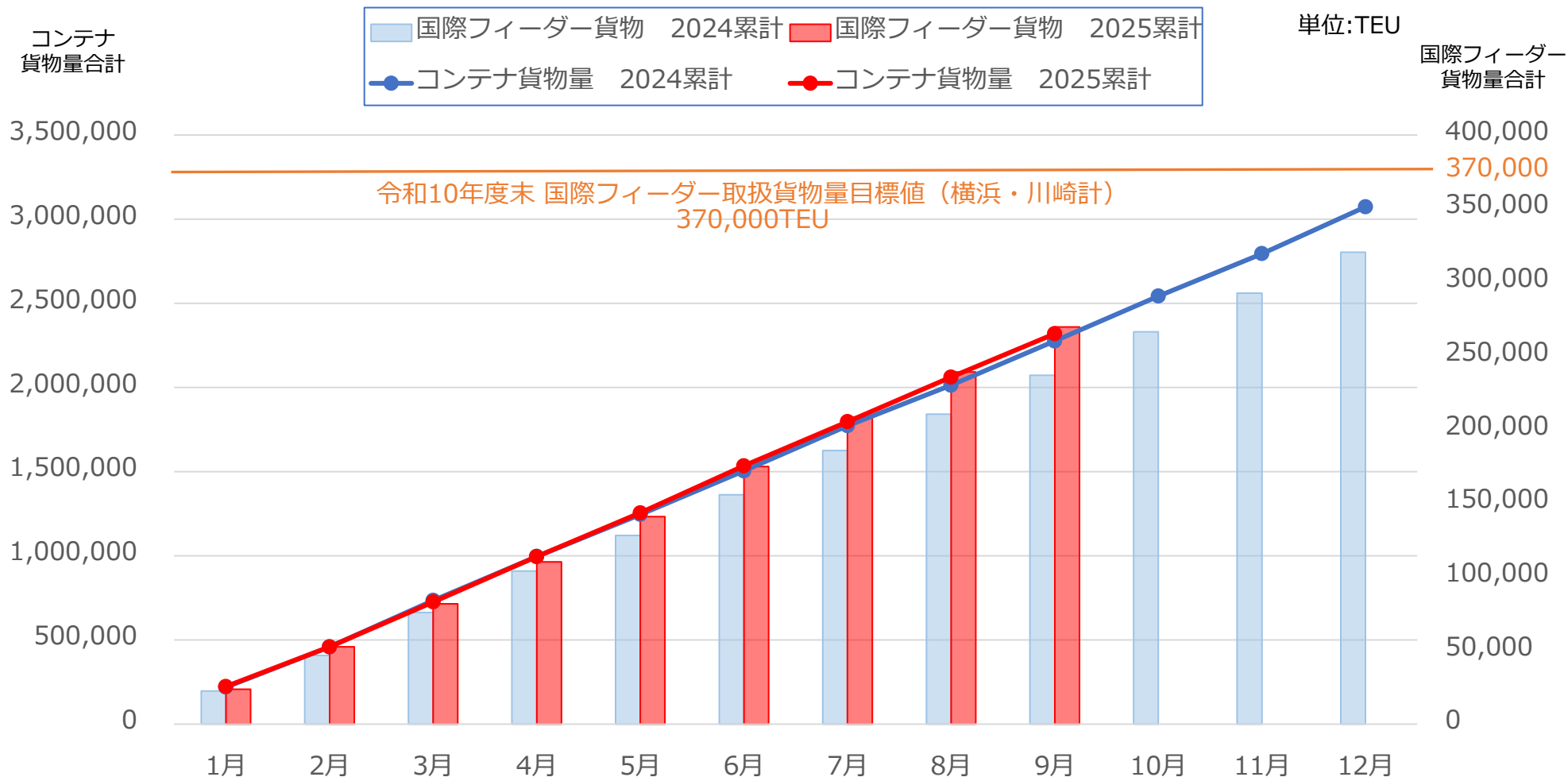
- ・2025年9月までの横浜港のコンテナ貨物量（外内貿計）は、累計で約4.3万TEU上回っている（前年比101.9%）
- ・昨年顕著な増加をしたトランシップコンテナ貨物量は鈍化し、昨年に比べ約2.0万TEUの減少となっている（前年比89.4%）※貨物全体におけるT/S比率 2023年4.8%⇒2024年8.3%⇒2025年9月時点7.2%



# 1.現状の貨物取扱や基幹航路の寄港状況

## (2)横浜港のコンテナ貨物量（外内貿計）及び国際フィーダーコンテナ貨物量

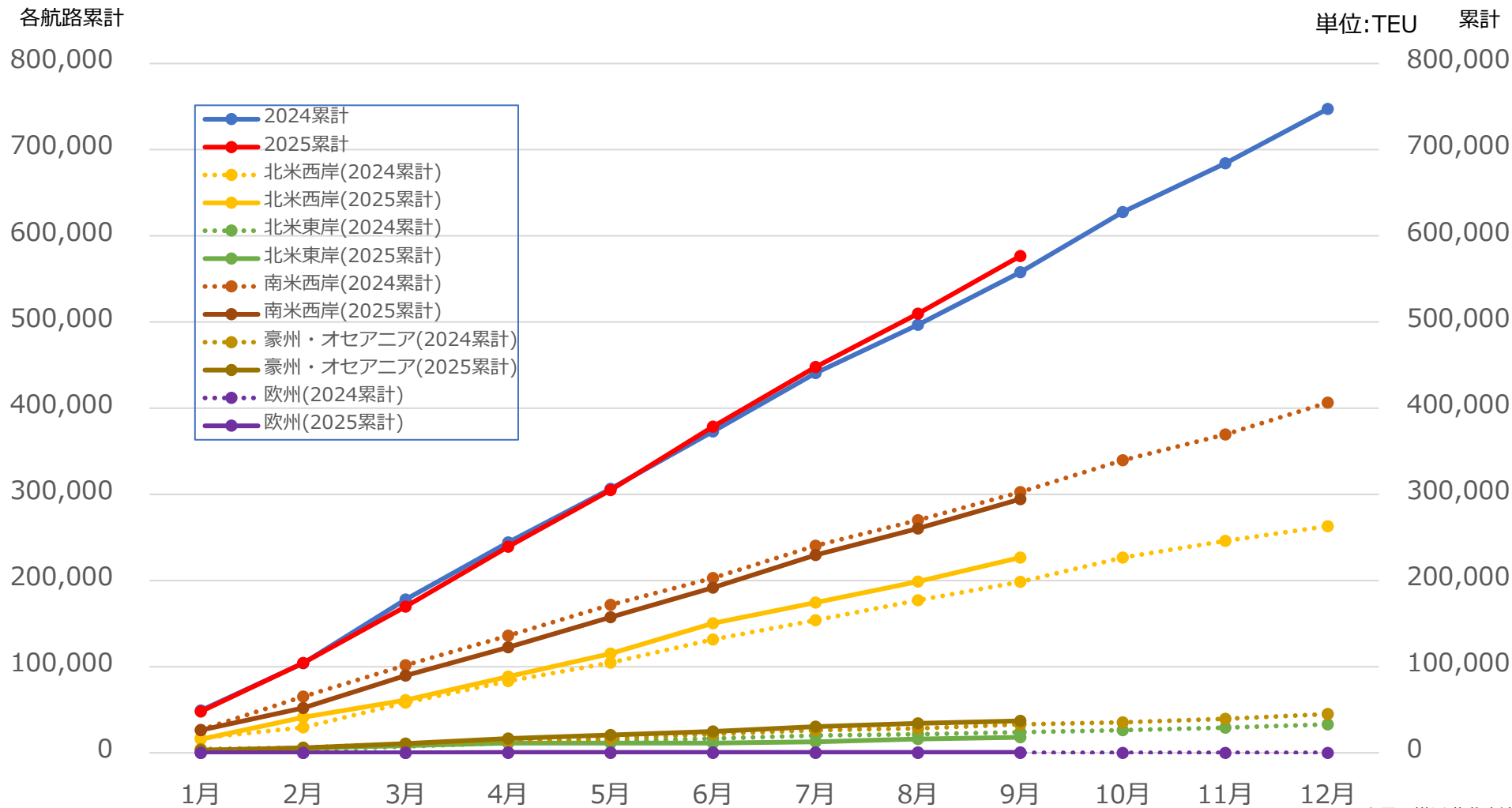
・2025年9月までの国際フィーダーコンテナ貨物量は堅調に成長しており、昨年に比べて約3.3万TEU上回っている（前年比113.8%）



# 1.現状の貨物取扱や基幹航路の寄港状況

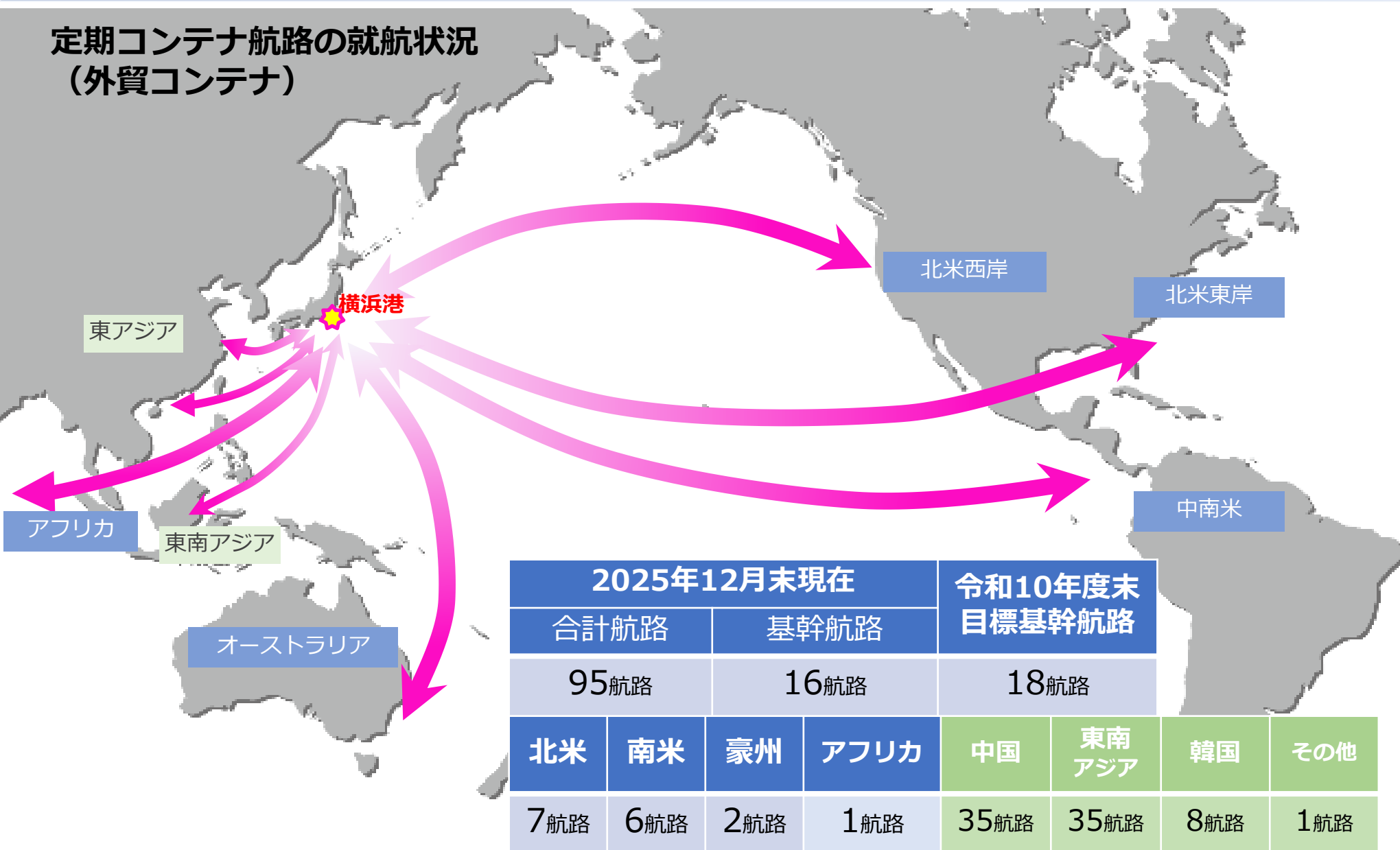
## (2)横浜港基幹航路のコンテナ貨物量

- ・2025年9月までの基幹航路のコンテナ貨物量は、累計で前年を約1万9千TEU上回っている(前年比103.4%)
- ・航路別では北米西岸、南米西岸の取扱量が多く、北米西岸は約2万8千TEU増加した(前年比114.3%)



# 1.現状の貨物取扱や基幹航路の寄港状況

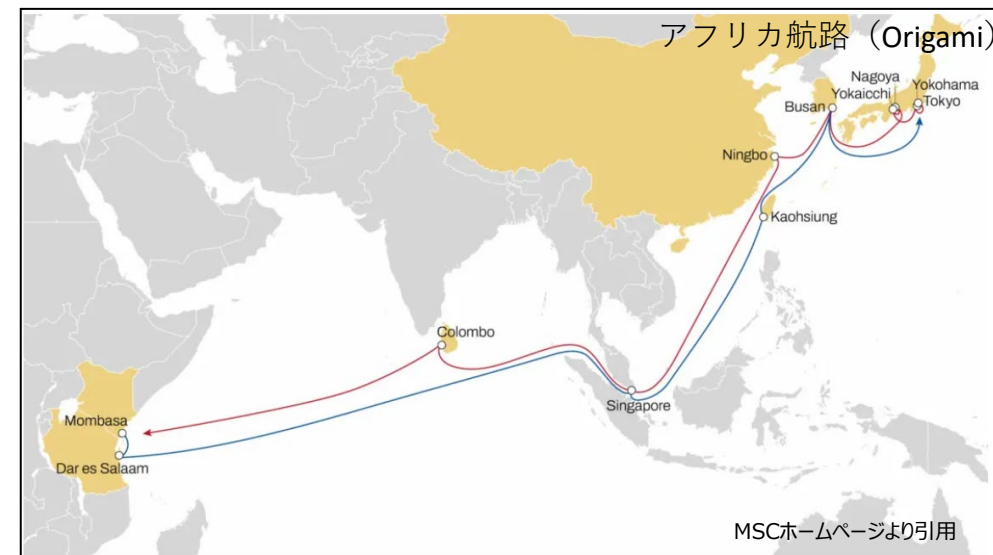
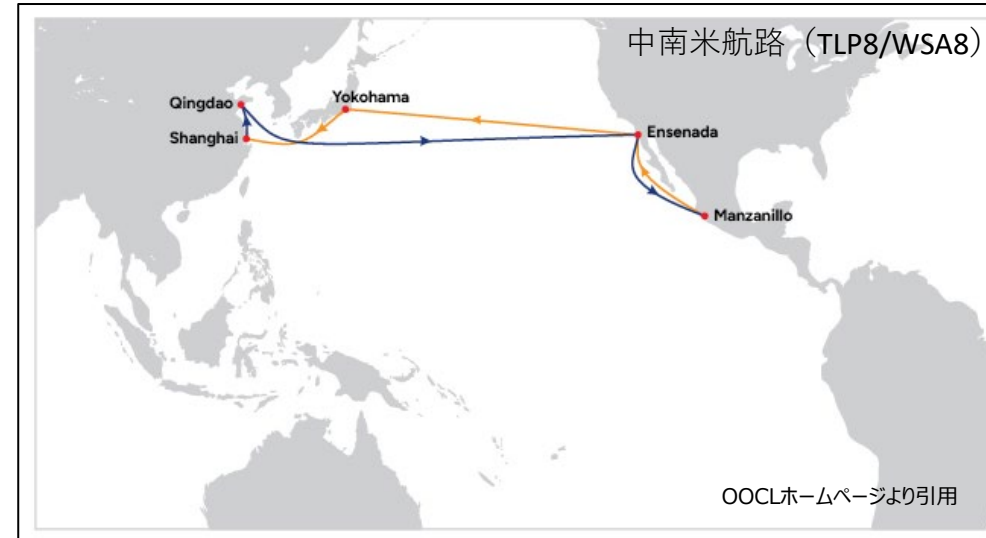
## 定期コンテナ航路の就航状況 (外貿コンテナ)



# 1.現状の貨物取扱や基幹航路の寄港状況

## (3)横浜港基幹航路の開設の動き

- ・ 2025年4月より休止していた、国内唯一の北米東岸航路（CBX）が7月から再開
- ・ 2025年10月、COSCO/OOCLが新たな中南米航路（WSA8/TLP8）が寄港開始
- ・ 2025年11月、MSCがアジア-アフリカ航路（Oryx）とアジア域内航路（Origami）を統合し、新しいアフリカ航路（Origami）として寄港開始





## 2.集貨に関する取り組み

### (1)国際基幹航路の新規誘致等に資するポートセールス・営業活動

外航コンテナ船社やターミナル運営会社の海外本社（MAERSK、ONE、APMT）にトップセールスを実施するとともに、インドネシアに拠点を持つ日系企業や物流事業者を対象としたセミナーを開催



### (2)東日本各港との連携を中心とした国内での取組

#### ①東日本各港と横浜港を結ぶ国際フィーダー航路網のPR

4月 インテックス大阪にて開催された関西物流展に出展

273名（うち54名が製造業）の来場者があり、その後一部の荷主企業へヒヤリングを実施。



11月 いわたの港湾利用促進セミナー（大船渡）に参加

地元立地企業物流担当者および岩手県、県内市町村担当者向けに横浜・川崎港の優位性やYKIP集貨支援策について説明

11月 横浜市川崎市とともに「横浜川崎港湾セミナーin宮城」を開催

昨年に引き続き最大の国際フィーダー取扱港である仙台港を有する宮城県でセミナーを開催。156名（64社）が参加。



#### ②宇都宮貨物ターミナル駅を活用した鉄道モーダルシフトのPR

11月 神奈川臨海鉄道 横浜本牧駅 施設見学会に参加

18社39名が参加 鉄道を利用したモーダルシフトおよび関連する集貨支援策について説明。



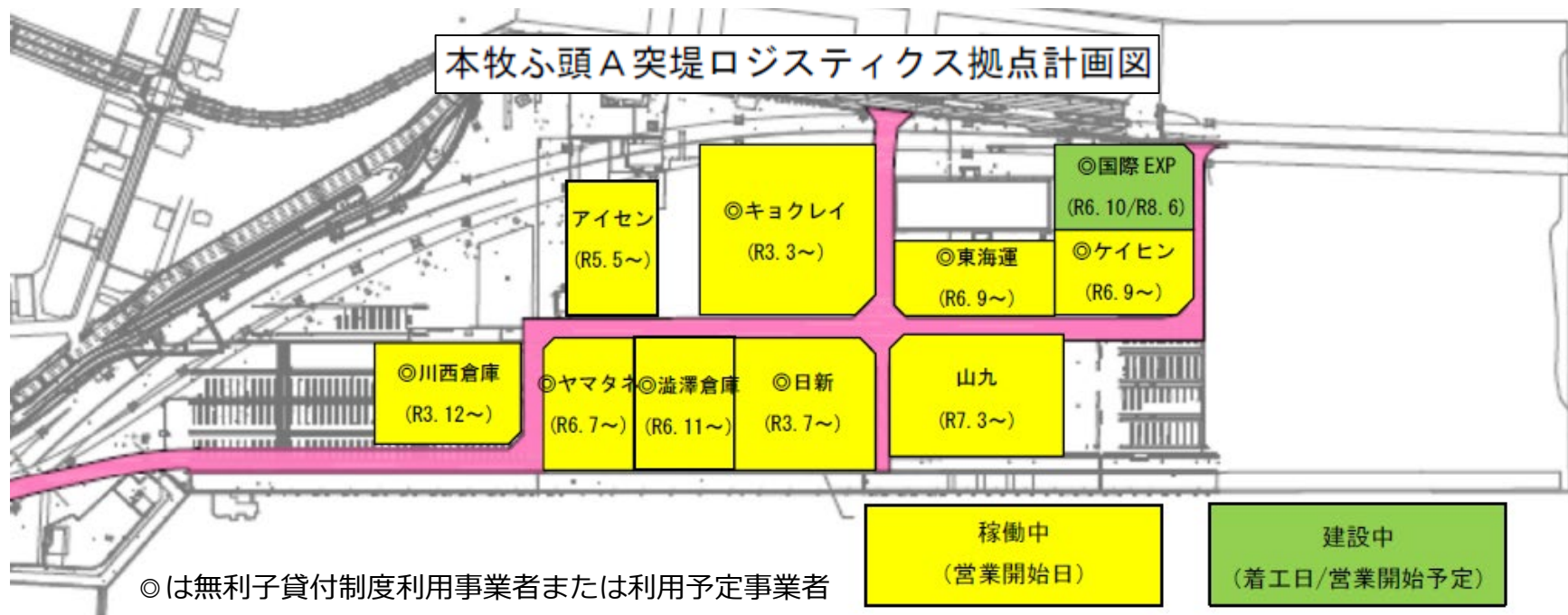


### 3.創貨に関する取り組み

本牧ふ頭A突堤にロジスティクス拠点の整備を進めており、2025年3月末までに9棟のロジスティクス施設が稼働しています。現在1棟の建設が進み、**計10棟が稼働予定**

稼働中の施設の貨物は横浜港に寄港する**基幹航路を通じて輸入・流通加工**されており、**基幹航路の維持・拡大に直接効果を発揮**。岸壁直背後の物流施設は、プラント等の重量物や長尺物を取扱っており、**関連部品をコンテナで輸出**

2024年度までに稼働した施設のコンテナ貨物取扱い実績は**年間約15,000TEU**であり、10棟稼働後は、更なる取扱い量の増加が期待





# 4.競争力強化に関する取り組み

## 1) 新たなターミナルの整備や既存ターミナルの再編・機能強化

### ①本牧ふ頭D-5コンテナターミナルの整備

大型コンテナ船の円滑な受け入れを目指し、国直轄事業と連携し工事を実施中。

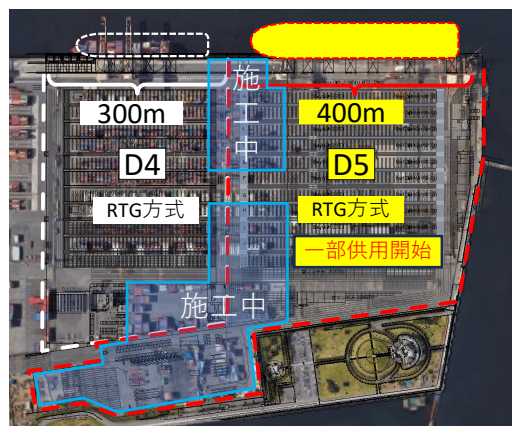
2025年9月より一部供用を開始。

本牧ふ頭D-5整備状況（2025年9月時点）

整備前



2025.9現在



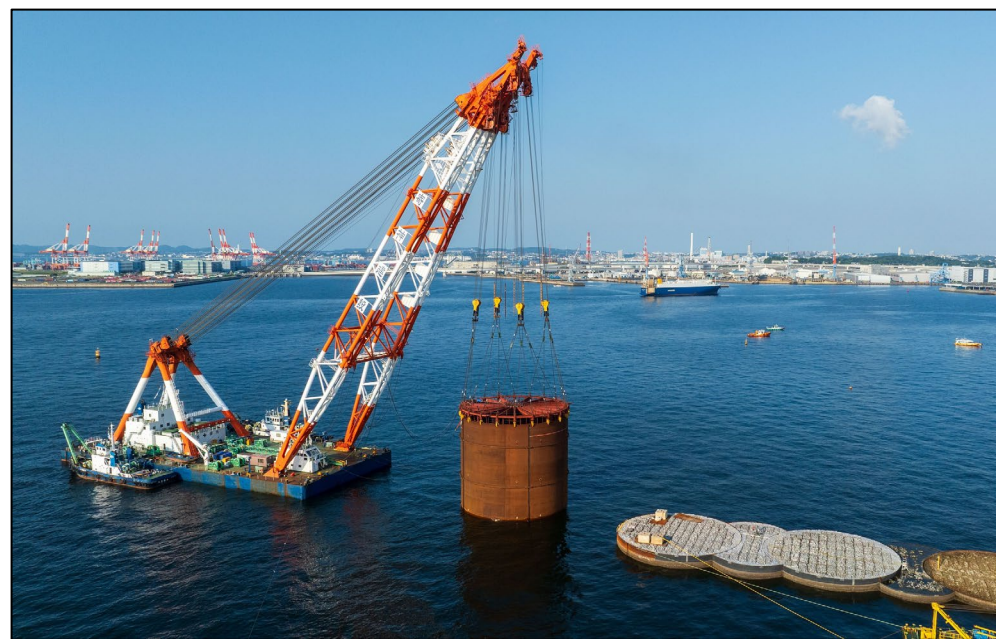


## 4.競争力強化に関する取り組み

### 1) 新たなターミナルの整備や既存ターミナルの再編・機能強化

#### ②新本牧ふ頭の整備

- ・コンテナ船の大型化や貨物量の増加に対応するため、大水深・高規格コンテナターミナルと、高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設を一体的に配置した最新鋭の物流拠点を形成にむけて、国と市が連携し、整備を実施中。



新本牧ふ頭の岸壁構築状況（2025年8月）

# 4.競争力強化に関する取り組み

## 2) DXの推進に係る取り組み

### ① 大型ガントリークレーン遠隔操作に係る実証実験

南本牧ふ頭において、JFEエンジニアリングが共同し、我が国では初となる24列9段積コンテナ船に対応した国内最大級大型ガントリークレーンの遠隔操作化に関する実証実験を開始

### ② コンテナターミナルのゲートの高度化（CONPASの導入）

2024年10月より、CONPASとTOSシステムを接続する場合の費用等の補助制度を創設し、これまでに2件のTOSシステム改修への補助を決定

### ③ サイバーセキュリティ

ガイドラインに基づき、事案発生時に必要な対策を講じるための、連絡会を本年5月に立ち上げ、10月には訓練を実施

## 3) GXの推進に係る取り組み

### ① 国際港湾協会サステナビリティアワード

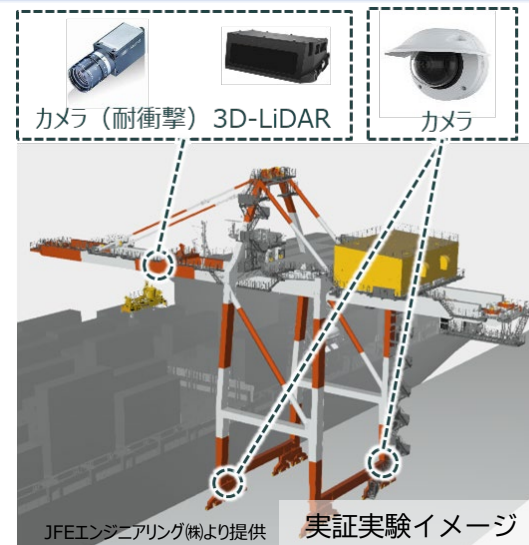
横浜港が最優秀賞を日本港湾で初めて受賞

### ② CNP認証制度

川崎港コンテナターミナルが全国初のCNP認証を取得

## 4) コンテナターミナルの一体的利用に向けた取り組み

### ① 本牧ふ頭において、一体利用に向けて関係者と調整を実施



一体的利用イメージ

### ～船社はコストと効率性で港を選択する～

- ・ **コストパフォーマンス**  
→ 港湾コストの低廉化
- ・ **タイムパフォーマンス（定時性の追求）**  
→ 入出港の円滑化、荷役時間の短縮
- ・ **少子高齢社会への対応**  
→ 生産性の向上と港湾労働環境の改善
- ・ **ターミナルの環境対応**  
→ 荷役機器のゼロエミッション化の推進

# 参考：コンテナ港効率性評価(CPPI)

横浜港は、世界銀行等がコンテナ船の滞在時間を基に港の効率性を評価するContainer Port Performance Index (CPPI)において、2020年には世界1位、5年連続で国内1位を獲得した。

※CPPIとは船舶が港に到着してから出港するまでの時間を、船のサイズ・貨物量等の条件などで補正し、スコアを算出した指標

2020		2021		2023		2024	
1	<u>横浜港 (日本)</u>	1	キングアブドゥッラー港 (サウジアラビア)	1	上海洋山深水港(中国)	1	上海洋山深水港 (中国)
2	キングアブドゥッラー港 (サウジアラビア)	2	サラール港 (オマーン)	2	サラール港(オマーン)	2	福州港 (中国)
3	赤湾港 (中国)	3	ハマド港 (カタール)	3	カルタヘナ港 (コロンビア)	3	ポートサイド港 (エジプト)
4	広州港 (中国)	4	上海洋山深水港 (中国)	4	タンジェメド港 (モロッコ)	4	大連港 (中国)
5	高雄港 (台湾)	5	ハリファ港 (アラブ首長国連邦)	5	タンジュン・ペラパス港 (マレーシア)	5	タンジェメド港 (モロッコ)
6	サラール港 (オマーン)	6	タンジェメド港 (モロッコ)	6	赤湾港(中国)	6	馬湾港 (中国)
7	香港港 (中国)	7	寧波港 (中国)	7	カイメップ(ベトナム)	7	カイメップ港 (ベトナム)
8	青島港 (中国)	8	ジッダ港 (サウジアラビア)	8	広州港 (中国)	8	広州港 (中国)
9	蛇口港 (中国)	9	広州港 (中国)	9	<u>横浜港(日本)</u>	...	
10	アルヘシラス港 (スペイン)	10	<u>横浜港 (日本)</u>	10	アルヘシラス(スペイン)	16	<u>横浜港(日本)</u>

参考：CPPI2022は第15位 (国内1位)